

# 参考資料 3 - 1



### 現状・課題

- ① 成人期まで使える情報共有ツールが無い
- ② 所属機関や支援者が変わる際、必要な情報のアンマッチや情報不足により、支援の停滞が起こりがちである
- ③ 新たな支援者につながっても、障がい特性や支援経過の共有が不十分なため、当事者・家族と支援者間の信頼関係の形成に時間がかかる

### めざす姿

- ① 当事者・保護者と支援者間、または医療、保育、福祉、教育、就労等の各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」がある。
- ② 各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報共有がスムーズに行われ、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引き継ぎが行える仕組みがある。

### 取組方針

- 【1】 ライフステージの移行時や支援機関(者)等がかかわる際の、支援の引き継ぎ状況、課題等について、自治体調査及び医療・福祉・教育・就労等の関係機関への聴取りを実施し、実態把握、要因分析を行う。
- 【2】 本市の現状について把握し、多角的な視点からの分析を行うため、本人・保護者のニーズを調査するとともに、各ライフステージで支援に携わる関係機関等に対して、意見を広く収集し、あるべき「情報共有ツール」の姿を分析する。
- 【3】 【1】及び【2】の結果をふまえ、共有すべき「情報」支援内容を整理し、「情報共有ツール」の内容を検討する。  
地域の実情に応じた「切れ目のない支援の引継ぎのための仕組みづくり」を検討する。

### 取組み内容

#### 【1】(平成29年度)：自治体調査の実施

##### 【調査先】

- ◆都道府県・政令市、医療・福祉・教育・就労等の関係機関。

#### 【2】(平成30年度)：本人・保護者・関係機関等への調査の実施

##### 【調査先】

- ◆本人、保護者、保育所・幼稚園(公立・私立)、公立学校(小・中・高)、特別支援学校、専門学校、短大・大学、企業、障がい福祉サービス・障がい児支援事業所等、児童養護施設、医療機関、区、こども相談センター。

#### 【3】(令和元・2年度)：情報共有ツールの内容の検討、支援の引き継ぎのための仕組みづくりの検討

##### 【令和元年度】

- ◆平成29・30年度に実施した調査結果の分析、情報共有ツールの内容及び普及啓発方法の検討。

##### 【令和2年度】

- ◆情報共有ツール「就学前編」を保護者等に試用してもらい、試用後に効果測定を実施。使用上の意見を分析し、より使いやすいものを作成。
- ◆就学時以降の移行期に有用な情報共有ツールを順次作成。
- ◆情報共有ツールの普及啓発活動を実施。

# 切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～情報共有ツールを活用した仕組み～

## ～平成30年度本人・保護者・関係機関等への調査結果～

- 本人・保護者・関係機関等への調査は、複数の選択肢から当てはまるものを選ぶ「選択肢形式」と、思ったことや具体例を自由に記述する「自由記述形式」を併用して行った。
- 自由記述の回答には、より具体的な内容が記載されていたり、調査者が見落としていた視点について記載されていることから、選択肢形式の回答のみでは、より具体的ニーズが十分に把握できない可能性がある。
- 情報共有ツールの活用希望、事前に情報提供がなかった場合に困ったこと等、生活場面が新たな環境に移る時の引継ぎの際にどのような内容・事項等の情報があれば役立つと思うかについて選択肢形式で尋ねたところ、保護者・関係機関等とも回答に共通した傾向がみられた。
- そのため、情報共有ツールの主な利用者となる保護者を中心に、自由記述欄の回答分析を行い、情報共有ツールの内容検討の一助とする。

## ～支援の引継ぎのための仕組みづくり～

令和元年度では、調査結果を分析した次の5つの項目に基づき、情報共有ツールを活用した支援の引継ぎが必要な「対象時期」、情報共有ツールの書式や項目などの「内容」、作成にあたって保護者への「支援」、支援者への「普及」の検討を行った。

- ライフステージに応じた情報提供が必要
- 保護者と専門分野異なる支援者間での理解・共有の困難性
- 環境の変化の場面での困難性と情報共有ツールの必要性
- 情報共有ツールは啓発活動の機能もあわせ持つ
- 情報共有ツールの具体的な内容

5つの項目に基づき検討した結果、具体的な引継ぎの仕組みづくりの実現には、次の2つの項目が必要と考えられる。

- 情報共有ツールの作成  
「就学」という幼児期から学齢期の移行期を想定し、発達障がい児の保護者が理解、作成しやすい形の情報共有ツールを作成
- 情報共有ツールの普及  
情報共有ツールを広く市内の関係機関に知ってもらうために、支援者への普及活動を実施し、保護者と支援者が情報を共有できる状況を促していく

# 切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

## ～ 情報共有ツール「就学前編」の試用 ～

令和元年度に作成した情報共有ツール「就学前編」試用版について、実際に使う人にとって使いやすいものになっているか検証するため、保護者に試用してもらい、使用するうえでの意見や感想を聴取。支援者・関係機関等からも意見を聴取し、より使いやすいものに改善を図った。

### 試用状況

試用者	対象児童	試用状況			試用した保護者の主な意見
		配付者数	試用者数	実施時期	
ペアレント・トレーニング参加保護者	小学校1～4年生	5人	3人	令和2年8月	・小学校入学時にあれば、子どもの発達の特徴を伝えるのに便利だったと思う。 ・担任の教師とのディスコミュニケーションで困っていたので、書式が欲しい。 ・チェックすれば良いので、簡単で使いやすい。大きさや記入量はちょうどよい。 ・家にプリンターが無いので、印刷した形の方がよい。 ・「苦手なこと・不安になりやすいこと」は、伝えたいことが多いので、もう少し記入するスペースを多くして欲しい。
発達障がい児専門療育機関利用者、障がい児通所サービス利用者の保護者	年長児	4人	4人	令和2年11月	
		26人	試用中	令和3年1～2月	聞き取り中

# 切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

## 支援者・関係機関等からの意見の聴取状況

関係機関等	実施時期	主な意見
エルムおおさか連絡協議会	令和2年9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「就学編」の対象は、就学前（年長）からときっちり記載されている方がわかりやすい。</li> <li>・保育所園の先生からのコメントを記載する欄は、記載した日付を書く欄があった方がよい。</li> <li>・医療情報を記入するところに「てんかん」の有無を入れて欲しい。</li> <li>・「具体的には…」にある字がかけ、字が書きにくい、文字が読める等は、入学してから学習する子もいるので、就学編の対象年齢や学年等をはっきり書いてもらった方が、先生にも理解してもらえるのではないかと。その方が、「心配な分野」の順位がはっきりしてくるのではないかと。</li> </ul>
大阪市障がい者施策推進協議会 発達障がい者支援部会	令和2年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校では頑張り過ぎたり、よい子でいるためしんどくなり、不登校に至るケースについて、事前に情報提供できる項目があればよい。</li> <li>・「急に後ろからタッチするのはダメ」等、これだけはアウトということが目立つように入っていると学級担任はとても助かる。</li> <li>・「生活面での心配」の項目をもっと具体的にイメージできる表現にしてはどうか。</li> </ul>
大阪市こども相談センター 教育相談担当	令和2年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級の担任にとっては、クラス全体のイメージが持てるまで細かい部分を読み込んで、個別のイメージを持つことは難しいように思えるので、その中で、良いところに着目しやすい項目立てになっているのは良いと思う。</li> <li>・最初の2ページに当面必要な情報が書かれているのは良いと思う。</li> <li>・この情報共有ツールは、基本的に通常学級で過ごす、またはグレーゾーンの子ども達を対象に作成されているというイメージがある。</li> </ul>
大阪市教育委員会事務局 インクルーシブ教育推進担当	令和2年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この情報共有ツールを使って、保護者と先生がやりとりして一緒に子どもについて考えていけることが重要であると思う。</li> <li>・保育所園や幼稚園の先生に周知して、心配で相談してきた、もしくはグレーゾーンの子どもや特徴があるにも関わらず気づきにくい保護者の方に理解してもらおうツールに使ってもらおうと良いと思う。</li> <li>・普及啓発について、職員（教員）研修の中で注意喚起する機会があった方が良いと思う。家庭と福祉と教育の引継ぎ連携～トライアングルプロジェクトで連携していこうという通達が出ている。HPにアップする際に、情報共有ツールとともに使い方の例が載っているマニュアルが必要であると思う。保護者の方たちには、わからなければ保育所園、幼稚園の先生に聞いて一緒に作ることを勧めると良いと思う。失くしてしまいがちな保護者の場合は、許可を得て学校が管理することも。</li> </ul>
発達障がい児専門療育機関の 支援者	令和2年11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所園の先生からのコメントを記載する欄は、どんなことを情報提供すると良いか、記入例で分かるようにしておいた方が良いと思う。行事の時と日常時のことや、時間経過とともにわかる本人の行動や言語コミュニケーションの傾向も。</li> </ul>

# 切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

## 試用の効果

保護者に試用後に聞き取りを実施し、その効果を測った。

試用者	対象児童	使用の効果		
		人数	実施時期	効果
ペアレント・トレーニング 参加保護者	小学校 1～4年生	3人	令和3年 2月	・保護者と学校が情報を共有できた。 ・保護者が支援者に情報を伝えられた。伝えるのに使う 予定である。
発達障がい児専門療育機関 利用者、障がい児通所サービ ス利用者の保護者	年長児	4人	令和3年 2月～3月	聞き取り中

## ～ 情報共有ツールの普及啓発 ～

作成した情報共有ツール「就学前編」を広く市内の関係機関に知ってもらうために、支援者への普及啓発活動を実施し、保護者と支援者が情報を共有できる状況を促していく。

## 普及啓発の実施状況

講座名等	日時	対象者	内容
ティーチャーズ・トレーニング	令和3年2月18日	保育所保育士	講座の最後に 紹介・配布
ペアレント・トレーニング実践報告会	令和3年3月5日	保護者・支援者	
親支援講座「ちょっと気になる子どもたちのからだ講座」	令和3年3月22日（予定）	保護者・支援者	